中学校国語　第１・２学年

各学年共通した課題	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと		
学年	設問	設問のねらいと問題の概要	正答率(%)
1	大問7の4 ㉚	○ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力	46.5
2	大問7の3 ㉙	○ 資料や機器を用いて表現を工夫する力	40.1

復習のポイント

【1年生の皆さんへ】

○ 表現を工夫して話すとは?
聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話をすることです。

○ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するためには?
聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、左に示した表現（速度、音量、言葉の調子、間の取り方、言葉遣いなど）を工夫することが大切です。

【2年生の皆さんへ】

○ 資料や機器を用いるとは?
話の内容に関する本、図表、グラフ、写真などを含む資料、コンピュータのプレゼンテーションソフトなどの ICT 機器を必要に応じて使うことです。

○ 資料や機器を用いて表現を工夫するためには?
話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえ、どのような資料や機器をどのように用いればよいのか、伝えたい内容を適切に伝えるために有効かなどについて検討することが大切です。

○ 力を付けるために
①教科書や令和4年度全国学力・学習状況調査問題 1 「スピーチをする（最近気になったこと）」の文章を活用し、聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を直したり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方について考えたりしましょう。
②授業や学校生活の中で発表をする際には、資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるようにしましょう。また、その様子を端末等で録画し、より分かりやすく伝えるための工夫について、ペアやグループで検討する機会を増やしましょう。

★チャレンジ★大問 1 の国【二人の会話の一部】に一線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【条件1】【川口さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書きましょう。
→「どの部分を」ということは、文章を引用する必要があります。
「　　」で正確に書き抜きましょう。
【条件2】条件1のように話す意図（理由や根拠）を書きましょう。
※正答例は、本紙の一番下に示しました。「★チャレンジ★」が終わったら確認してみましょう。

調査問題はこちらから

国立教育政策研究所「令和4年度全国学力・学習状況調査問題」より一部抜粋

★チャレンジ★の正答例

・A　「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。

・B　私は、自分が一番伝えたいことに着目してもらうために、「この言葉を聞いてはっとしました。」のあとに少し間を取ります。

・C　「相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていない」という部分の語調を強めて、課題だと感じていることを強調したい。

・D　「やりとりをスムーズに行いにくいという面もある」の部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながら話す。